

平成22年度プロジェクト評価結果取り纏め状況等(前半)

平成22年11月26日

N E D O 評 価 部

1. 今年度評価状況等

(1)今年度は、36件【中間評価16件、事後評価20件】の評価を実施予定。

このうち、25件【中間評価15件、事後評価10件】について、各分科会での評価作業、第26回及び今回の研究評価委員会での審議を経て、評価報告を取り纏め、以下に整理した。

(2)中間評価結果は、プロジェクトの拡大、変更、縮小、中止等の今後の運営方針に反映し、事後評価結果も含めて、得られた教訓は、NEDOの研究開発マネジメントの高度化に繋げることが重要。

2. 中間評価の概要

(1) 全体傾向

各評価項目の評点結果の平均から見た全体傾向は、研究開発マネジメント及び実用化・事業化の見通しが、昨年、一昨年などより若干低めである。(表1)

表1. 評価項目ごとの平均値推移

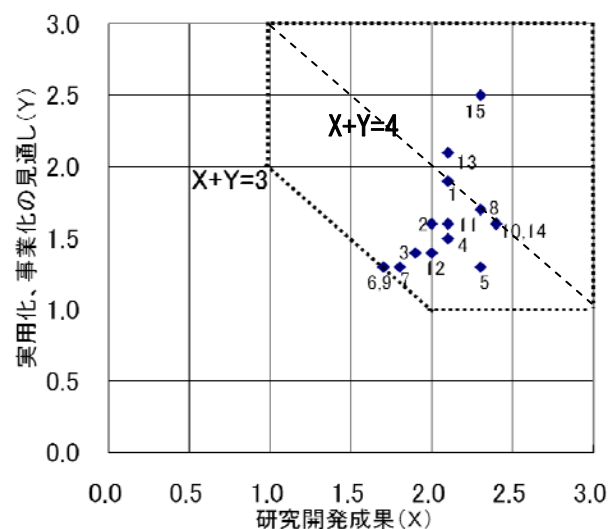
	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
22年度上期 15件	2.7	1.9	2.1	1.6
21年度 25件	2.8	2.2	2.3	1.9
20年度 22件	2.8	2.2	2.4	2.0
19年度 10件	2.8	2.1	2.3	1.9

また、上期に実施した15件のプロジェクトは、いずれも一定水準以上の評価結果であった。(表2)

別紙2に代表する肯定的内容や改善点・提言を含めた評価結果について、現在、その反映作業を進めており、プロジェクトの拡大・変更・縮小・中止等、今後の運営に資する。

(注)標準的評価項目に対しA(優)B(良)C(可)D(不可)の4段階の評点を付け、A=3, B=2,C=1,D=0として事務局が数値換算。平均値を算出する。

表2. 中間評価結果の評価分布(参考)



* 表中の数字は別紙1の整理番号

(2) 個別プロジェクト(別紙2参照)

合格相当ではあるが、厳しめの評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
6	ゼロエミッション石炭ガス化技術開発プロジェクト／ 革新的ガス化技術に関する基盤研究事業	2.9	1.4	1.7	1.3
7	エネルギーITS推進事業	2.3	2.0	1.8	1.3
9	立体構造新機能集積回路(ドリームチップ)技術開発	2.7	1.3	1.7	1.3

いずれのプロジェクトも「実用化見通し」の評点が厳しめ。評価で指摘された課題への解決方針を検討すべきもの。

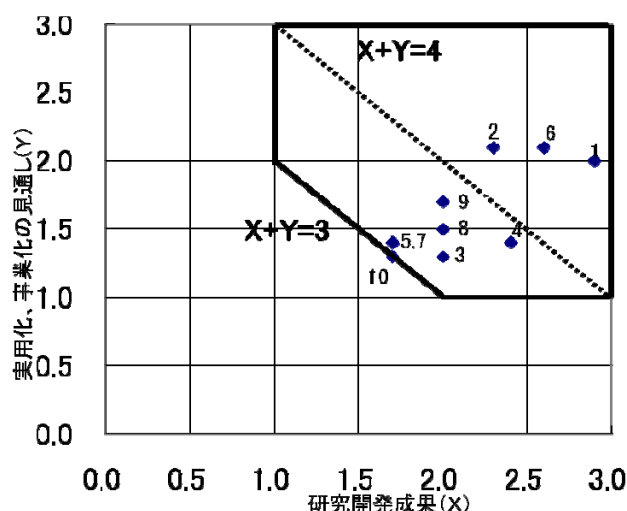
3. 事後評価結果の概要

(1) 全体傾向

上期においては、年間予定数20件のうち 10件について評価。

今年度は第二期中期計画(H20-24)の3年目で、かつ、現在は上期が終了した段階であるため、中期計画全体の数値目標(合格率80%、優良率60%)との直接比較は出来ないが、10件が合格(うち3件が優良)となっている。(表3, 別紙2)

表 3. 事後評価結果の評点分布



* 表中の数字は別紙1の整理番号

(2) 個別プロジェクト(別紙2参照)

①特に高い評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
1	機能性RNAプロジェクト	3.0	2.1	2.9	2.0
6	細胞アレイ等による遺伝子機能の解析技術開発	3.0	2.9	2.6	2.1

成果において高い評価を受け、かつ、実用化の見通しも明確であるとの評価を得たもの。

② 合格ではあるが、厳しめの評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
3	高効率天然ガスハイドレート製造利用システム技術実証研究	2.7	2.0	2.0	1.3
5	再生医療の早期実用化を目指した再生評価技術開発	2.1	1.6	1.7	1.4
7	植物の物質生産プロセス制御基盤技術開発	2.6	1.7	1.7	1.4
10	深部治療に対応した次世代DDS型治療システムの研究開発	2.7	1.8	1.7	1.3

個別技術の成果ではなく、プロジェクト全体の成果としての評価が低く、実用化の見通しも厳しい評価となっているもの。

今後、他のプロジェクトマネジメントへのフィードバックが期待される。

4. 優れたマネジメントの事例

今年度上期の評価において、他の類似プロジェクトにおいても活用できる優れたマネジメントへの高い評価も受けているものがある。

今回は、PLのリーダーシップ及び実施者間の競争と協調を工夫した優れたマネジメント事例を示す。(表4)

表 4. 優れたマネジメントの事例

番号	プロジェクト名	マネジメントに関する評価(抜粋)
2	研究用モデル細胞の創製技術開発(事後評価)	<u>プロジェクトリーダーのリーダーシップのもと、幹細胞の基礎生物学だけでなく、企業の研究者、薬理の研究者など分野を超えた世界トップクラスの研究開発実施体制で、各研究グループが連携して研究が推進された。</u>
6	細胞アレイ等による遺伝子機能の解析技術開発(事後評価)	<u>創薬に関する高い見識と豊富な情報を有するプロジェクトリーダーを中心として良好な研究開発マネジメントが行われ、実施者間の連携が十分に行われるように工夫された。</u>
1	固体酸化物形燃料電池システム要素技術開発(中間評価)	<u>本プロジェクトは、高い識見、リーダーシップがある適格なプロジェクトリーダーの下、適切な技術力・知識を保有する企業および大学・研究機関で構成され、頻繁な各種委員会を通じて相互に情報交換を行いながら、全体が統括されて進められている。</u> <u>特に、従来は企業が秘密事項としていた情報を産官学で共有して、問題解決に繋げる体制が構築されたことは、事業化に向けて極めて有効な手段を確立されつつある点を評価したい。</u>

5. 後半の評価予定 (別紙1参照)

現在、後半のプロジェクトについて評価分科会での評価を進めている。今年度中に1回研究評価委員会を開催する予定。

(3月を予定。中間評価1件、事後評価10件附議予定。)